

# 株式会社エージーピー 2023年度第2四半期決算補足説明資料

～ 持続的な企業成長に向けて ～



動力供給事業でCO2削減

エンジニアリング事業で  
運航を支える

空を想い、技術を極め、環境社会を創る

フードカートで  
温かい食事を

専用格納庫で  
ビジネスジェットをサポート

## 1 2023年度 決算報告

- 1) 2023年度 第2四半期決算報告  
Executive Summary
- 2) 損益計算書
- 3) セグメント別売上高
- 4) 貸借対照表,分析指標
- 5) セグメント別損益

## 2 中期経営計画進捗状況と 2023年度 主要取り組み

- 1) 3つのステートメント(FY23の主要取り組みと進捗)
- 2) セグメント別事業戦略
- 3) 成長の実現に向けた取り組み
- 4) 設備投資と人的資本投資（教育に対する投資）
- 5) 株主還元方針および流通株式比率等の状況について
- 6) APPENDIX  
中期経営計画数値目標  
中期経営計画の経営方針

## 3 2023年度 業績予想

- 1) 損益計算書
- 2) 貸借対照表,分析指標
- 3) セグメント別売上高予想

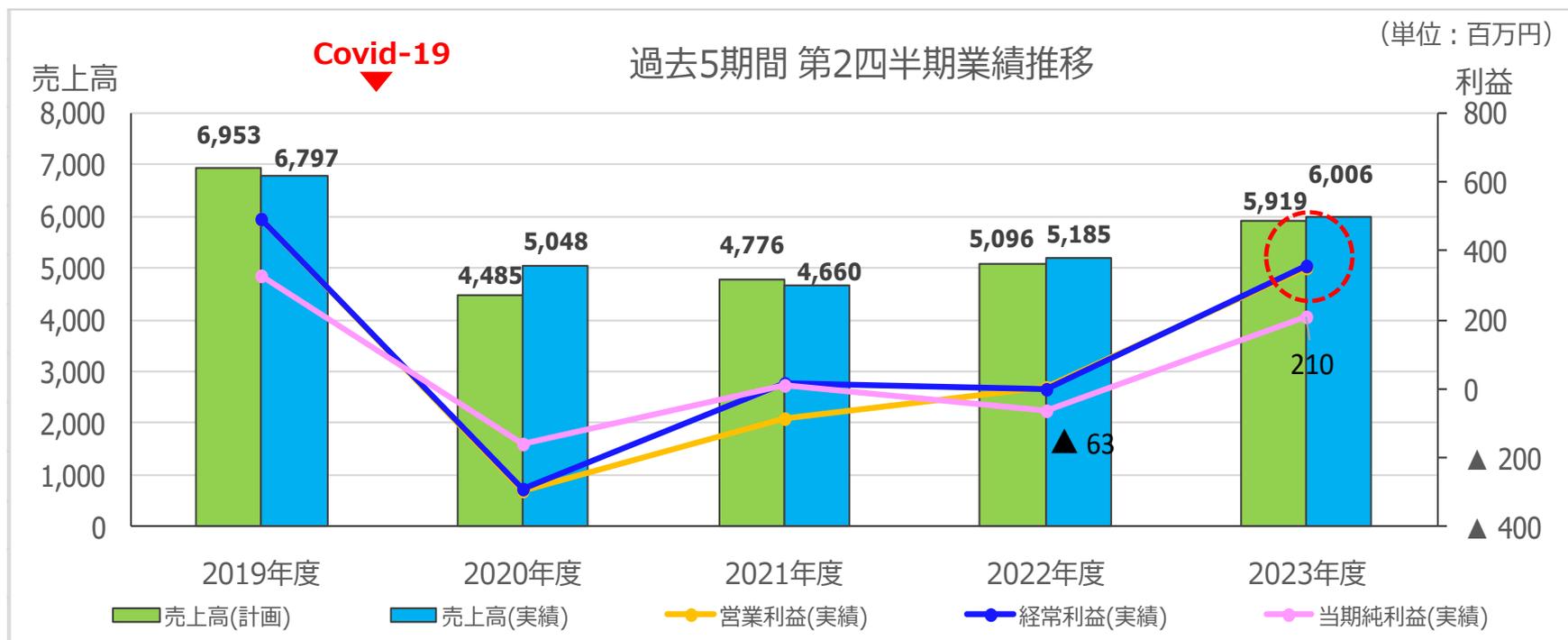
# 2023年度 第2四半期 決算報告

# 2023年度 第2四半期決算報告

## Executive Summary



- 全ての利益段階で大幅に改善（経常利益、当期純利益は前年の赤字から黒字に転換）
- 対前年は、増収増益
  - 航空需要の回復により増収増益を達成（売上高はFY19第2四半期の88.3%：GSE等販売がFY19対比63%減）
  - 当期純利益は、2億10百万円と前年の63百万円の損失から大幅に改善
- 対計画は増収増益を達成。通期業績予想は据え置き
- 中間配当は期初予想のとおり15円



# 2023年度 第2四半期決算報告

## 損益計算書



- 営業利益は、対前年3億45百万円増益の3億51百万円、経常利益は対前年3億55百万円増益の3億54百万円、当期純利益は対前年2億74百万円増益の2億10百万円となった
- 売上高は、動力供給事業とエンジニアリング事業の増収により、対前年8億21百万円(15.8%)増の60億6百万円となった

(単位：百万円)

	2022年度 実績	2023年度 実績	増減額	増減率
売上高	5,185	<b>6,006</b>	<b>+821</b>	+15.8%
売上原価	4,701	<b>5,029</b>	+328	+7.0%
セグメント利益	484	<b>977</b>	+492	+101.7%
(GM%) <sup>*1</sup>	(9.3%)	<b>(16.3%)</b>	+6.9pt	—
全社費用 <sup>*2</sup>	478	<b>626</b>	+147	+30.8%
営業利益	5	<b>351</b>	<b>+345</b>	+5,914.2%
(OM%) <sup>*3</sup>	(0.1%)	<b>(5.8%)</b>	+5.7pt	—
経常利益	▲0	<b>354</b>	+355	—
当期純利益 <sup>*4</sup>	▲63	<b>210</b>	<b>+274</b>	—

\*1 GM% : Gross Profit Margin

\*2 全社費用 : 主に報告セグメントに帰属していない一般管理費

\*3 OM% : operating profit margin

\*4 当期純利益 : 親会社株主に帰属する当期純利益

# 2023年度 第2四半期決算報告

## セグメント別売上高



(単位：百万円)

		2022年度 実績	2023年度 実績	増減額	増減率	特記事項
動力供給事業		2,102	<b>2,772</b>	+669	<b>+31.8%</b>	運航便数の回復に加え、原材料費高騰の変動に応じた動力料金への価格転嫁を開始
エンジニアリング事業	整備保守	1,093	<b>1,315</b>	+221	+20.3%	航空需要の回復が加速し、特殊機械設備の稼働時間の増加に伴い、業務量が増加
	施設保守	790	<b>751</b>	▲ 39	▲ 5.0%	施設保守工事の減少
	ビジネスサポート支援	131	<b>127</b>	▲ 3	▲ 2.5%	
	セキュリティ保守	289	<b>300</b>	+11	+4.1%	
	物流保守サービス	315	<b>348</b>	+32	+10.2%	物流倉庫関連設備の施工管理、設備保守等への技術者支援業務が増加
	小計	2,620	<b>2,842</b>	+222	<b>+8.5%</b>	
商品販売事業	フードシステム販売	125	<b>198</b>	+73	+58.8%	介護・福祉施設へのカート販売が増加
	GSE* <sup>1</sup> 等販売	200	<b>190</b>	▲ 9	▲ 4.6%	
	電力販売	137	<b>2</b>	▲ 135	▲ 98.5%	2023年2月24日AGPでんきサービス終了に伴い減収
	小計	462	<b>391</b>	▲ 70	<b>▲ 15.3%</b>	
<b>合計</b>		<b>5,185</b>	<b>6,006</b>	<b>+821</b>	<b>+15.8%</b>	

\*1 GSE : Ground Support Equipmentの略称で、航空機地上支援機材の総称

# 2023年度 第2四半期決算報告

## 貸借対照表, 分析指標



### <連結貸借対照表>

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	2022年度 期末	2023年度 2Q実績	増減額
流動資産	7,140	<b>7,063</b>	▲ 76
現預金	4,230	<b>4,243</b>	+ 13
その他流動資産	2,909	<b>2,819</b>	▲ 90
固定資産	6,214	<b>6,110</b>	▲ 103
資産合計	13,354	<b>13,174</b>	▲ 180

- 流動資産：債権未回収による営業未収入金2億72百万円減、前払金1億10百万円増等により76百万円の減少
- 固定資産：資産取得（有形・無形）は2億19百万円、減価償却が2億94百万円進み、1億3百万円の減少
- 動力設備投資は、年間進捗18.08%（年間投資計画10億21百万円）

### <分析指標>

	2022年度 期末	2023年度 2Q実績	増減
ROE (%) <sup>*1</sup>	5.5%	<b>4.6%</b>	▲0.9pt
自己資本比率 (%)	68.7%	<b>68.9%</b>	+0.2pt
D/Eレシオ(倍)	0.10x	<b>0.08x</b>	▲0.02x

- 自己資本比率：前期末より純資産は1.1pt減、負債は1.9pt減となり自己資本比率は0.2pt増加（目標値：50%台）

	2022年度 期末	2023年度 2Q実績	増減額
負債合計	4,174	<b>4,096</b>	▲ 77
有利子負債	894	<b>756</b>	▲ 137
その他負債	3,279	<b>3,340</b>	+ 60
純資産	9,180	<b>9,077</b>	▲ 102
負債・自己資本合計	13,354	<b>13,174</b>	▲ 180

- 有利子負債：長期借入金返済等により1億37百万円の減少
- 純資産：配当3億26百万円実施、当期純利益 2億10百万円

### <連結キャッシュフロー計算書>

	2022年度 2Q実績	2023年度 2Q実績	増減額
営業キャッシュフロー	715	<b>606</b>	▲ 109
投資キャッシュフロー	▲ 305	<b>▲ 131</b>	+ 174
フリーキャッシュフロー	410	<b>475</b>	+ 65
財務キャッシュフロー	▲ 187	<b>▲ 464</b>	▲ 276
EBITDA <sup>*2</sup>	342	<b>645</b>	+ 303

- 投資CF：設備投資の遅延により174百万円増加
- 財務CF：配当金の支払額326百万円により、276百万円減少
- 営業CF：営業未払金の減（支払延長解除）により、109百万円減少

\*1 ROE(%)：(当期純利益\*) / (期首・期末平均自己資本) 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

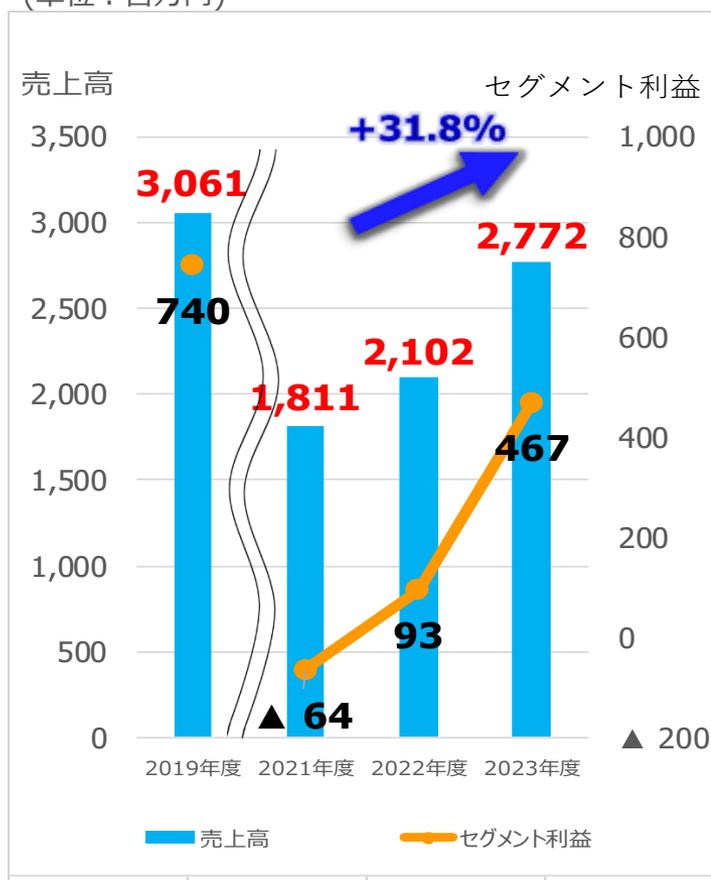
\*2 EBITDA：営業利益 + 減価償却費

## 2023年度 第2四半期決算報告

セグメント別損益 ～ 動力供給事業 ～

## &lt;各年度 第2四半期実績推移&gt;

(単位：百万円)



## 2023年度 第2四半期実績：

- 売上高は前期比+31.8%

航空需要の回復に伴う電力供給機会の増加に加え、4月利用分より原材料費の変動に応じた価格転嫁により売上が伸長

- セグメント利益は前期比+402.4%



## 事業の特徴：

- 航空機用動力として電力・冷暖房気・圧搾空気を供給
- 固定式と移動式のGPU（地上動力設備）にて供給
- GPUは、APU（航空機補助動力装置）に比較し、CO2排出量は1/10以下

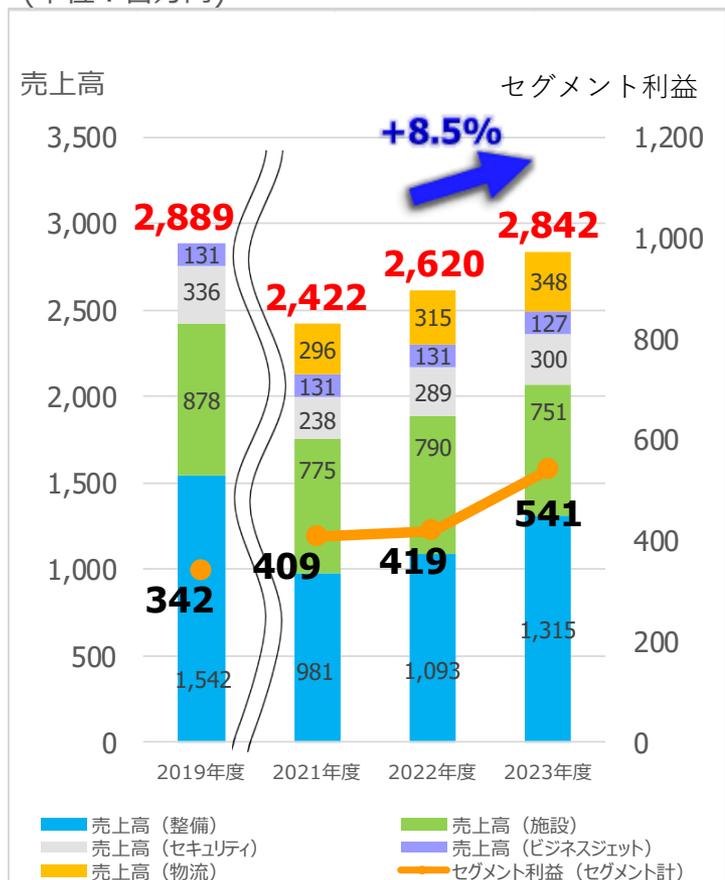
## 2023年度 第2四半期決算報告

## セグメント別損益 ～ エンジニアリング事業 ～

セグメント「エンジニアリング事業」：「整備保守」、「施設保守」、「ビジネスジェット支援」、「セキュリティ保守」、「物流保守サービス」

## &lt;各年度 第2四半期実績推移&gt;

(単位：百万円)



## 2023年度 第2四半期実績：

- 売上高は前期比+8.5%

空港内業務は航空需要の回復傾向により、特殊機械設備の保守業務需要が高まったことに加え、空港外ではEC物販市場の堅調な伸びを受けて物流倉庫関連設備に係る業務に継続して取り組んだことにより売上が伸長

- セグメント利益は前期比+29.1%

作業効率の改善や継続的なコスト削減に努め、空港事業の回復に応需しながら、更なる事業領域の拡大に向けて推進中



## 事業の特徴：整備保守について

- 航空機の定時運航を可能とする、旅客手荷物搬送設備、旅客搭乗橋設備などのメンテナンス
- 空港内で培ってきた技術やノウハウを活かし、空港外の物流センター等のメンテナンスの拡張

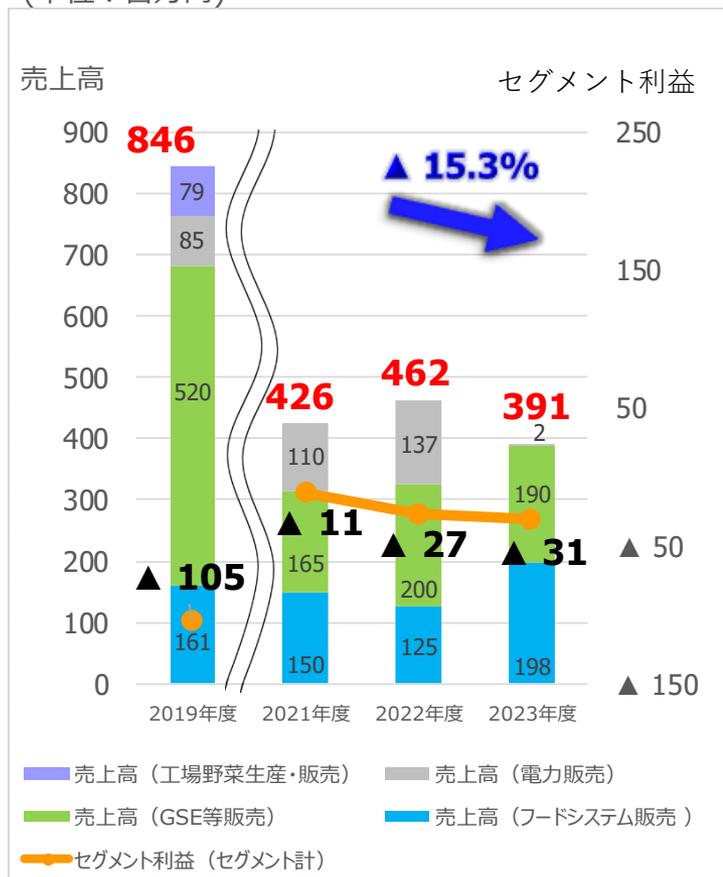
# 2023年度 第2四半期決算報告

## セグメント別損益 ～ 商品販売事業 ～

セグメント「商品販売事業」：「フードシステム販売」、「GSE等販売」、「電力販売」

### <各年度 第2四半期実績推移>

(単位：百万円)



### 2023年度 第2四半期実績：

#### • 売上高は前期比▲15.3%

介護・福祉施設へのカート販売が増加している一方で、AGPでんきサービスを2023年2月に終了したこと等により売上が減少

#### • セグメント利益は赤字が継続

赤字が継続しており、早期黒字化が課題



Mallaghan社製のPBL(Passenger Boarding Lift)



パッセンジャーボーディングレーフ (PBR)

### 事業の特徴：

- 航空機用フードカートノウハウを生かしたフードカート等製造販売、GSE（航空機地上支援機材）販売

# 中期経営計画進捗状況と 2023年度 主要取り組み

## 中期経営計画進捗状況と2023年度第2四半期の進捗 FY23の主要取り組みと進捗



### ESG経営の推進

人材育成と社員福祉の充実  
経営の透明性  
健全性に重きを置いたガバナンス

### 成長の実現

新たな環境事業の創出  
空港外領域事業の更なる展開

### 戦略投資と還元の両立

資本効率の向上  
成長への再投資と成果の還元  
(株主,従業員,社会)の好循環経営

## FY23の主要取り組み ※完了済み案件：取り消し線

- ・ J-ESOP\*1導入(FY23/6予定)
- ・ ダイバーシティ/グローバル化推進  
(タイ人スタッフ15名以上採用)
- ・ 改定CGC \*2準拠 (残り9コード)
- ・ 育児休業取得率100%
- ・ 空港の脱炭素化推進に向けた取り組み

- ・ EV事業化に向けたビジネススキーム構築、採算性評価
- ・ バッテリー駆動式GPUの販売
- ・ 空港外領域(物流保守サービス)への事業展開に向けた基盤構築
- ・ 将来の成長に向けた技術開発

- ・ 主要空港の拡張/増強工事による11億円の投資計画
- ・ 将来の成長に資する事業への投資
- ・ 中間配当15円、期末配当15円、年間配当30円を予定

## 第2四半期の進捗

- ・ 改定CGC\*2準拠(Q2決算:1項目取組中) 残り8項目
- 4-11-1.取締役会の全体としての知識等のバランス、多様性・規模に関する考え方、取締役の選任に関する方針・手続は、スキルマトリックスを作成し、Comply
- 4-2-1.中長期的業績と連動する報酬の割合、現金報酬と自社株報酬の割合の適切な設定は、取り組み中

- ・ バッテリー駆動式GPUの性能試験が完了。真夏の関西空港に於いて、高温化でも十分な性能を発揮することを確認
- ・ 仙台空港にバッテリー駆動式GPUを配備し、カーボンニュートラルに向けた普及モデルの策定を支援

- ・ 動力設備関連投資は184.6百万円 (HND動力設備工事等)
- ・ 役員、社員向けに社外研修を実施
- ・ 中間配当15円に決定
- ・ 賃金ベースアップ2023年10月より開始

\*1 J-ESOP : 従業員株式給付制度 (従業員に対して自社株式を給付するインセンティブ制度)

\*2 CGC : 東証コーポレートガバナンスコード

## 中期経営計画進捗状況と2023年度主要取り組み セグメント別事業戦略



### セグメント別事業戦略

#### FY23の主要取り組み

#### 第2四半期進捗状況

#### 動力供給

- 原材料高騰に対して、4月利用分より**原材料費の変動に応じた価格転嫁**を行い、改善を図る
- 自社設備/工事の仕様見直し等によるコスト構造改革で、収益性を高め**資産効率を向上**
- 投資判断は**資本効率向上**を重視する
- 将来の成長を見据えた**技術開発**に取り組む

- 自社設備のコスト構造改革として、新たな調達先の開拓

#### エンジニアリング

- 契約の改定を行い、適切なプライシング改善による**採算性を担保**
- 空港内業務の人材不足対応として、技術者のマルチスキル化を進めながら**BPR\*1**を**実行**し、業務の効率化や生産性向上を図り、コスト削減・利益を最大化（一人当たり売上高を上げる）

- 施設保守事業における各種契約単価更新

#### 商品販売

- 変化する外部環境に対応できるカーボンニュートラル等の**環境貢献機材の販売**（GSE販売）
- 自社製品の開発・販売は、空港外（港湾等）の特定市場にも**販路を拡大**（GSE販売）

- 防衛省よりGSEを受注、販路を拡大

\*1：BPR：ビジネスプロセス・リエンジニアリング

## 中期経営計画進捗状況と2023年度主要取り組み 成長の実現に向けた取り組み



- 地方空港への取り組みとしては、バッテリー駆動式GPUの年度内配備に向けた取り組みと、COMBO機材の11月からの6台増配備を推進。
- 海外展開については、商談案件が増加し交渉が加速化。
- パートナー企業の開拓を進め、羽田、那覇、高松、仙台にてEV車両及び充電設備等を展開中。新たなビジネススキームの構築(環境×電気×DX)により、空港の脱炭素化実現を目指す。
- 物流保守サービスは、役務提供から脱却した新たな戦略として、エンドユーザーとの直接取引の獲得や、小規模物流センターのシステムの構築から保守までを担う事業を推進。

### 市場の開拓

#### 地方・海外空港への展開

バッテリー駆動式GPU SASJ社\*1 COMBO



- バッテリー駆動式GPUを地方空港へ販売
- 環境貢献機材を地方空港へ販売
- 埋設型GPUのASEAN市場展開アプローチ
- エンドユーザーと直接取引案件の獲得
- 事業基盤となる技術者の育成・強化

- 実証事業の推進
- 地上車両EV化、それに必要とされる充電施設マネジメント事業に向けたビジネススキーム構築、採算性評価

### 新たな提供価値の創出

#### 環境×電気×DX



- カーボンニュートラルとDXという2つのメガトレンドを踏まえ、自社の強みを活かした新たな環境貢献に寄与する収益事業を創出

### 物流保守サービス事業の拡大

### 成長する産業へ参入

実現に向けて  
事業買収含めたM&A検討

\* 1 SASJ社 : Smart Airport Systems Japan株式会社 2022年にTAS社60%、AGP社40%の合弁会社として設立。日本国内空港を対象にサービス展開

## 中期経営計画進捗状況と2023年度主要取り組み 設備投資と人的資本投資



### <FY23設備投資計画>

- 既存/更新投資は、219.7百万円であり、対計画+112.5百万円  
→動力関連：東京国際空港国内線ターミナル地区動力設備工事176.9百万円、他  
→GSE等販売事業関連：地上電源ユニット販売促進デモ機材調達7.6百万円、他

件名	2Q累計			年間		年間計画投資内容
	実績 a	計画 b	差異 a-b	計画 d	進捗率 c/d	
I.成長投資	0.0	0.0	0.0	0.0	0	
II.既存/更新投資	219.7	107.2	112.5	1,085.5	20.24%	
①動力関連設備・工事・他計	184.6	83.6	101.0	1,021.1	18.08%	動力供給事業関連機器更新/工事案件
②整備保守事業関連	3.1	4.6	▲ 1.5	4.6	66.90%	－
③施設保守事業関連	3.1	2.0	1.1	13.0	23.79%	－
④フードシステム事業関連	0.0	0.0	0.0	18.5	0.00%	新型IHデモ機 等
⑤電力販売事業関連	0.0	0.0	0.0	7.6	0.00%	バッテリー駆動式GPU導入、充電設備設置
⑥GSE等販売事業関連	11.6	7.8	3.7	7.8	147.46%	－
⑦その他	17.4	9.1	8.2	12.8	135.27%	成田三里塚寮の補修工事 等
合計(I+II)	219.7	107.2	112.5	1,085.5	20.24%	

### <人的資本投資>

- 従業員賃金テーブルのベースアップを決定、10月より実施
- 役員、社員向け研修  
国際女性ビジネス会議、コーポレートガバナンス/企業価値向上に向けた役員研修を上期に実施  
階層別研修やダイバシティ経営（女性活躍推進/グローバル化推進）に関する研修を下期に実施予定

# 株主還元方針および2Q時点の状況について



## 2023年度配当

- 中間配当は期初予想のとおり15円
- 期末配当15円と据え置き、年間配当は1株当たり30円を予想

## 中期経営計画期間の株主還元方針

- 当社は、株主の皆様への安定的・継続的な利益還元を最も重要な課題の一つと認識しており、事業基盤の強化や戦略投資を積極的かつ機動的に行うための内部留保を確保しつつ、業績や財務状況を総合的に判断したうえで、中間配当及び期末配当の年2回の配当を行うことを基本としています。
- また、持続的な成長により、1株当たりの利益（EPS）を増大させることをもって株主価値向上を図るとともに、株主の皆様への還元をこれまで以上に充実させるために、配当および自己株式取得に積極的に取り組み、本中期経営計画期間である4年間の総還元性向100%以上を目指します。

## 株主構成と流通株式比率の状況

- 上位3位の大株主（JAL,JAT,ANA）3社の保有率は、2023/3/31から変更なく73%
- 流通株式比率は2023年9月30日現在は**24.7%**に改善したが、東証（スタンダード市場）の上場維持基準の25%以上には達していない

	2023/3/31 (1)	2023/6/30 (2)	2023/9/30 (3)	(3) - (2)
発行済株式数	13,510,000	13,510,000	13,510,000	0
JAL	4,115,400	4,115,400	4,115,400	0
JAT	3,309,300	3,309,300	3,309,300	0
ANA	2,471,400	2,471,400	2,471,400	0
役員所有	35,700	29,100	31,100	+2,000
自己株式	442,135	2,135	2,135	0
その他の事業法人等(*1)	246,800	248,100	243,700	▲4,400
非流通株式数	10,620,735	10,175,435	10,173,035	▲2,400
流通株式数	2,889,265	3,334,565	3,336,965	+2,400
流通株式比率	21.39%	24.68%	<b>24.70%</b>	+0.02pt

(\*1) 3株主以外の一般法人

## APPENDIX

## 中期経営計画数値目標『経営方針&amp;全社数値目標』



## ■ 中期経営計画FY25着地目標

コロナ前(FY19)の売上/利益水準に回復させ、更なる成長へ

連結売上高  
150億円以上

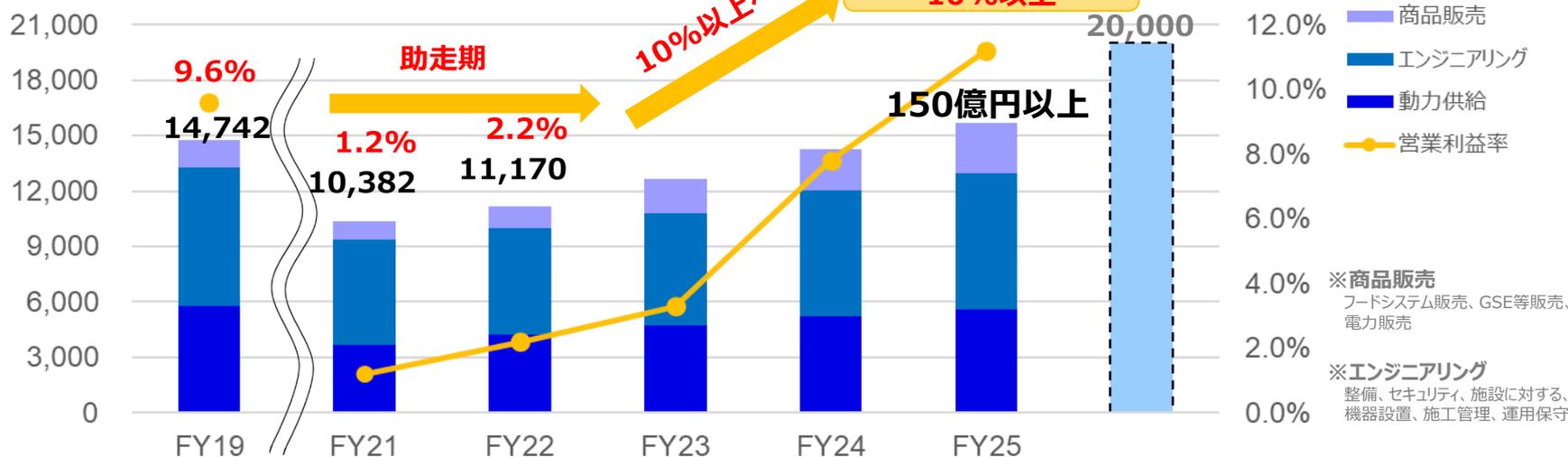
連結営業利益率  
10%以上

ROE  
10%以上

空港外売上比率  
20%以上

CO2排出量削減  
33.5万トン以上

単位:百万円



## 動力供給事業

National Agendaとしてカーボンニュートラルへの取り組みが重要課題であり、**当社GPU設備の利用促進を推し進める**。あわせて資本効率の向上を意識し、リターンを追求した事業構造への転換を進める方針である。

## エンジニアリング事業

空港内既存領域においては品質とコストのバランスの最適化を図り、ビジネスモデルの転換を推し進める方針である。横展開として、EC市場の拡大に伴い、**空港外の物流保守領域への積極的事業の拡大**を図り新たな収益源を目指す方針である。（物流保守サービス）

## 商品販売事業

**環境×電力×DXにより新たなビジネス創出**を目指し成長事業に育成をする方針である。その他販売事業については、顧客開拓および営業力強化に向けて、**専門企業とのアライアンス提携強化**などにより売上拡大を目指す方針である。

## APPENDIX

中期経営計画の経営方針『戦略全体像』～ 3つのステートメント経営戦略3本の柱～



- 当社は、以下の3つのステートメントを達成するために、経営戦略の「3本の柱」を遂行していきます。
- ESG経営を推進していくことで、『成長の実現』と『戦略投資と還元の両立』を実現させます。

## 3つのステートメント

## ESG経営の推進

人材育成と社員福祉の充実  
経営の透明性  
健全性に重きを置いたガバナンス

## 成長の実現

新たな環境事業の創出  
空港外領域事業の更なる展開  
(MHS\*<sup>1</sup> 保守サービス)

## 戦略投資と還元の両立

資本効率の向上  
成長への再投資と成果の還元  
(株主、従業員、社会)の好循環経営

## 経営戦略の3本の柱

## 選択と集中

安定した利益の確保と低採算事業の事業性評価やビジネスモデルの見直しと新たな成長事業への経営資源の再配分

## 事業基盤のシフト

新規の市場(海外・地方)、新規の産業(物流保守)への参入、新商材の拡充、多角化を推し進める

## 経営基盤の強化

「組織体制の整備」、「事業運営管理の適正化」、「中長期的な企業成長に向けて適正な財務基盤の構築」により経営基盤の強化を推し進める

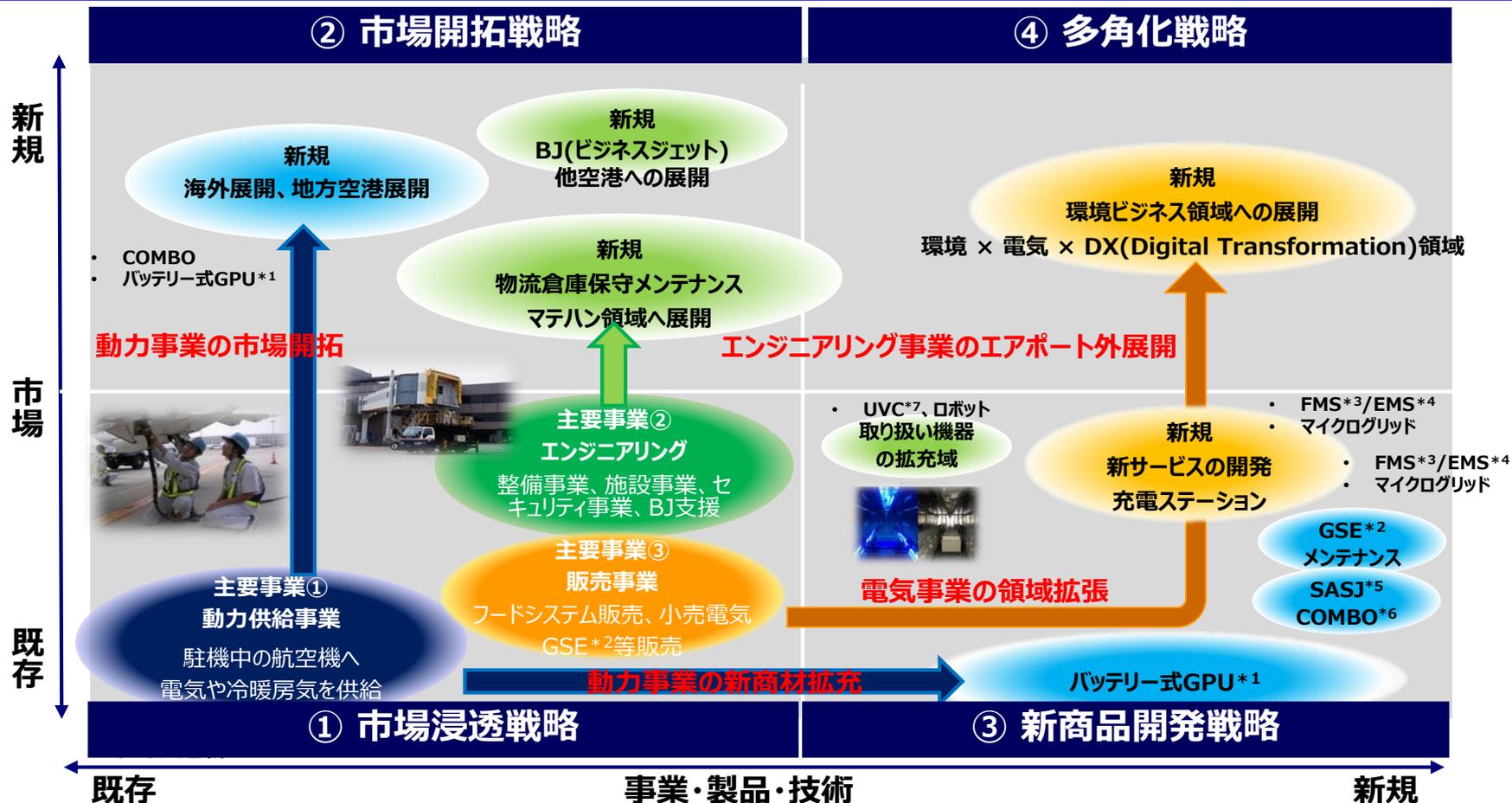
\*<sup>1</sup>MHS：マテリアルハンドリングシステム

APPENDIX

中期経営計画の経営方針『戦略全体像』～AGP事業戦略マトリクス～



- 「空港外や海外などに事業領域を拡大し、高い技術力で環境社会に貢献できる企業へ」を目指します。
- 当社技術を活かせる空港外領域への事業展開等により、新たな事業基盤へのシフトを推し進め、新規市場・産業への参入を目指します。



\*1GPU : Ground Power Unit (地上動力設備)      \*3FMS : Fleet Management System      \*5SASJ社 : Smart Airport Systems Japan株式会社 (TAS社60%、AGP社40%の合弁会社として設立)  
 \*2GSE : Ground Support Equipment (航空機地上支援機材)      \*4EMS : Energy Management System      \*6COMBO : SASJ社取り扱い機材      \*7UVC : 手荷物カート用UV-C除菌装置

# APPENDIX

## 2023年度 業績予想

## 2023年度 業績予想 損益計算書



- 売上高は、全セグメントにおいて対前年増収を予想
- セグメント利益は、動力供給事業では原材料費高騰により大きな影響を受けていたが、2023年4月利用分から価格転嫁を開始することで収支改善に繋がり、対前年増益の見込み
- 当期純利益は、対前年90百万円減益で4億20百万円の見込み。前年度と比較して減益する理由は、2022年度における繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴い、税金費用が大幅減少した結果、親会社株主に帰属する当期純利益が増加した反動

(単位：百万円)

	2019年度 実績 (参考)	2022年度 実績	2023年度 業績予想	前期比増減	前期比%
売上高	14,742	11,039	<b>12,580</b>	+1,540	114.0%
売上原価	12,341	9,541	<b>10,646</b>	+1,104	111.6%
セグメント利益 (GM%) <sup>*1</sup>	2,401 (16.3%)	1,498 (13.6%)	<b>1,934</b> <b>(15.4%)</b>	+435 1.8pt	129.1% -
全社費用 <sup>*2</sup>	978	970	<b>1,254</b>	+283	129.3%
営業利益 (OM%) <sup>*3</sup>	1,422 (9.6%)	527 (4.8%)	<b>680</b> <b>(5.4%)</b>	+152 0.6pt	128.8% -
経常利益	1,446	512	<b>660</b>	+147	128.7%
当期純利益 <sup>*4</sup>	498	510	<b>420</b>	▲ 90	82.2%

\*1 GM% : Gross Profit Margin

\*2 全社費用 : 主に報告セグメントに帰属していない一般管理費

\*3 OM% : operating profit margin

\*4 当期純利益 : 親会社株主に帰属する当期純利益

## 2023年度 業績予想 貸借対照表, 分析指標



### <連結貸借対照表>

(単位：百万円)

	2022年度 期末	2023年度 期末	増減額
流動資産	7,140	<b>7,127</b>	▲ 12
現預金	4,230	<b>3,965</b>	▲ 265
その他流動資産	2,909	<b>3,162</b>	+ 252
固定資産	6,214	<b>6,725</b>	+ 511
資産合計	13,354	<b>13,853</b>	+ 498

- 固定資産：主要空港の拡張・増強工事等のために11億円の投資を計画

### <分析指標>

	2022年度 期末	2023年度 期末	増減
ROE (%) <sup>*1</sup>	5.5%	<b>4.8%</b>	▲ 0.7pt
自己資本比率 (%)	68.7%	<b>66.4%</b>	▲ 2.3pt
D/Eレシオ(倍)	0.10x	<b>0.07x</b>	▲ 0.03x

- 自己資本比率：2.3pt低下見込み(目標値：50%台)株主還元と11億円の設備投資により資本効率が若干改善

(単位：百万円)

	2022年度 期末	2023年度 期末	増減額
負債合計	4,174	<b>4,657</b>	+ 482
有利子負債	894	<b>617</b>	▲ 277
その他負債	3,279	<b>4,039</b>	+ 759
純資産	9,180	<b>9,196</b>	+ 16
負債・自己資本合計	13,354	<b>13,853</b>	+ 498

- 有利子負債：2023年度 新規資金調達計画なし

### <連結キャッシュフロー計算書> (単位：百万円)

	2022年度 期末	2023年度 期末	増減額
営業キャッシュフロー	710	<b>1,199</b>	+ 489
投資キャッシュフロー	▲ 422	<b>▲ 902</b>	▲ 480
フリーキャッシュフロー	288	<b>297</b>	+ 9
財務キャッシュフロー	▲ 1,034	<b>▲ 682</b>	+ 352
EBITDA <sup>*2</sup>	1,184	<b>1,276</b>	+ 92

\*1 ROE(%)：(当期純利益\*) / (期首・期末平均自己資本) 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

\*2 EBITDA：営業利益 + 減価償却費

## 2023年度 業績予想 セグメント別売上高予想



(単位：百万円)

<事業別売上>		2023年度 業績予想	前期比増減	前期比%
動力供給事業		<b>5,340</b>	+1,072	<b>125.1%</b>
エンジニアリング事業	整備保守	<b>2,690</b>	+218	108.8%
	施設保守	<b>1,840</b>	+62	103.5%
	ビジネスジェット支援	<b>280</b>	+22	108.7%
	セキュリティ保守	<b>600</b>	▲ 32	94.9%
	物流保守サービス	<b>750</b>	+18	102.6%
	小計	<b>6,160</b>	+289	<b>104.9%</b>
商品販売事業	フードシステム販売	<b>388</b>	+95	132.8%
	GSE* <sup>1</sup> 等販売	<b>690</b>	+276	167.0%
	電力販売	<b>2</b>	▲ 194	1.0%
	小計	<b>1,080</b>	+177	<b>119.7%</b>
<b>合計</b>		<b>12,580</b>	<b>+1,540</b>	<b>114.0%</b>

### 前期比のポイント (売上高)

- 動力供給事業  
航空需要の回復により、電力供給機会が増加することに加え、原材料高騰の対応として、4月利用分より動力料金への価格転嫁を開始し、大幅増加
- エンジニアリング事業  
航空需要の回復により、空港内の整備保守業務が増加。また、施設保守契約単価の改定による増加  
・ストックビジネス +3億41百万円  
・フロービジネス ▲52百万円
- 商品販売事業  
販売環境の改善により、フードカート及びGSEの販売増加  
・電力販売は2023年2月24日にAGPでんきサービスを終了

\*1 GSE : Ground Support Equipmentの略称で、航空機地上支援機材の総称

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備保守と施設保守、ビジネスジェット支援、セキュリティ保守、物流保守サービスをまとめてエンジニアリング事業、フードシステム販売、GSE等販売、電力販売をまとめて商品販売事業として報告しています。(\*1)

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

## お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画部

電話：03-3747-1638

FAX：03-3747-0707

URL：<https://www.agpgroup.co.jp/>

\*1 2022年度よりセグメント名称を変更しております。